

ニュース

探検の殿堂と早田文蔵博士（木村陽二郎）

Yojiro KIMURA: Explorer Museum and Dr. Bunzo HAYATA

このたび西堀栄三郎記念「探検の殿堂」Explorer Museum, Nishibori Eizaburo Memorial が西堀氏のゆかりの地、滋賀県洲東町に設立された。南極・ヒマラヤ探検のパイオニヤーである西堀栄三郎を記念して洲東町町長西堀茂平氏が建てられたものである。場所は〒527-01 滋賀県愛知郡湖東町大字横溝419, Tel. 0749-45-0011, Fax 0749-45-3556である。八日市インターチェンジから車で10分のところで、鉄道ではJR 東海道新幹線米原駅でびわこ線に乗りかえJR 角能線で30分、又は近畿鉄道八日市駅下車、バスで10分である。月曜日と休日の翌日は休館日である。入場料300円、南極体験ゾーンは400円で寒さマイナス25℃の部屋で迫力ある映像が楽しめるという。

西堀栄三郎記念室は彼の偉業の紹介にあてられているが、「探検家の殿堂」はそれぞれの画家によって新しく画かれた各地域への日本人探検家49人の肖像画が飾られている。49人の探検家を選ぶにあたっては梅棹忠夫氏が委員長となり、吉良龍夫、近藤良夫、樋口敬二、本多勝一の四氏が委員として協議されたのである。歴史的人物として知られている最上徳内、近藤重蔵、高田屋嘉兵衛、間宮林蔵、伊能忠敬、松浦武四郎、ジョン万次郎、榎本武陽はもちろん49人の中に入っている。

ここでは植物学者の名をあげると木原 均、田代安定、早田文蔵、金平亮三、中尾佐助が挙げられている。実は早田文蔵博士の資料をNHKの某氏にたのまれて昨年送ったことがあった。早田博士の資料は東京大学理学部附属植物園からも送られ、肖像画は植物園所蔵の肖像も参考にして新しく描かれたと聞いている。早田教授の小石川植物園での最後の講義をきいたのは私たちのクラスであった。このたび、開会式が昨年（1994年）8月3日に行われ、その際、早田先生の長女の秋山幸子夫人は娘さん夫婦とこの式に参列され、私の資料提供を知って御便りとNHK出版、制作の『日本の探検家たち—未知への挑戦』を送って下さった。

この書はおそらく開館記念に関係者に贈られたもので、110ページ、頁の偶数ページ面に探検家の簡単な伝記と各人の肖像を担当した画家たちの感想文があり、相対する奇数面に色彩刷りで描かれた肖像画があって貴重な記録となっている。なおこれらの事柄についての問い合わせは「探検の殿堂」あてになされたい。

早田先生の台湾産植物への関心は高等学校生のとき台湾へ旅行するという熱心ぶりだったことが秋山夫人によって知ることができた。

追悼

北川政夫博士を偲ぶ

Professor Dr. Masao KITAGAWA 1910-1995

博士は本年8月4日長い療養生活の後、肺炎で逝去された。84歳を越えておられた。その生涯には非常な起伏があった。大連市（遼寧省旅大市）の生まれで、これが博士の一生を決定したかのように見える。同市は遼東半島の南端に位置し、南満州鉄道（通称満鉄）の起点であり、日本の軍部

を中心とする“満州経略”（？）の起点であった。北川博士はこの州立中学（旧制）を卒業し、弘前高校（旧制）を経て、東大理植物学科に入学し、更に旧制大学院の約5ヶ年の学生生活を享受した。私より一年の先輩で、早熟の学者であったから、教えられることが多かった。東大では中井